

なめがた市民 100 人委員会「第 2 班」議事メモ

議論した基本目標	市民のニーズに合った公共交通を実現する
コーディネーター	熊井成和（構想日本特別研究員）
審議員	平山清直（構想日本）
説明担当者（自治体）	事業推進課（公共交通）
日時	2021 年 6 月 27 日（日）15 時 15 分から 16 時 00 分
その他	参加者数 <u>会場 4 名</u> オンライン： <u>0 名</u> 欠席者数 <u>20 名</u>

総括

コーディネーター総括

- 乗り継ぎ利用特典制度のようによい事業があるのに、知られていない。もっと PR することも大事。
- いつかみんな移動手段がなくなって困る。そのときに困らないように今何ができるか。公共交通はバスやタクシーだけではない。次回は市民も一緒になって公共交通を考えていこう。

協議の流れ（摘録）

協議しているテーマ①「公共交通」

コ）現状の把握から。市民が利用しない、路線を知らない。利用しないとしても、市民に知ってもらう必要があるのでは？という提案があった。小学生目線でのポスターは作れないか？

移動手段を維持するためにどうするか。どこへ行きたいのか、行く必要があるのか。バス停までの移動手段、デマンドタクシーの展望など。交通の結節点の拠点化が必要で、機能集中により乗り換え時間の活用できる。また、「サツマイモバス」のようにイベント的要素を入れる。

自家用車に頼れなくなった時に困ると感じる。大切なことは利用者目線でどうしたいのか。市民はどこに行きたい？どこに行けていない？市民の生活実態をどのように把握するのか。たとえば「行かなければならないところ」と「行きたいところ」は違う。行かなきゃいけない場所ってどこ？

委）病院はいかないといけない。かかりつけ医とか個人病院はよくても、大きい病院だと鹿嶋とかになる。行方市内はバスがあるが、市外に出るなら車を運転できなくなったらどうしようか。玉造からだったら行けるから、乗り換えていくが本数が少ない。けどそ

委）：委員、コ）：コーディネーター、審）：審議員、市）：説明担当者

れしかない。

コ) 病院は必要不可欠。年をとればとるほど必要になるのに。

委) 家族がいればまだいいけど

コ) 一人暮らしは難しい。他にも買い物や郵便局、銀行なんかも、ネットバンキングとか増えてきたけど、まだまだ頼っているのでは。

委) 誰かにお願いできるものならいいけど、筑波に出かける用事がある。中心部は難しい。

コ) 土浦より筑波が多い？

委) 生活圏がそれぞれ違う。

委) 地域医療センターが縮小したから変わってしまった。

コ) 欲しいものを買いに行けなくなったりしているのでは。

委) 高齢の母を見ていると、親族(兄弟)に会いにいきたいというのはあると思う。別の町に住んでいる場合は行きにくい。

コ) 親族・知り合いなんでも、気軽に会いたいですね。

委) 買物に行きたいのでは。やはりお出かけして買いたい。

コ) ネット通販が進んでいるけど、どこかに買いに行くというはあるよね。

不可欠なものの反対は自己実現のためのもの、楽しみのためとか。人間として生きていくために必要なものと、自己実現のためのもの。

委) 東京に行きたい。

コ) 何のために行きたいとありますか。遊びに行きたい、友達に会いたいなど。

委) 仕事に行きたい。

コ) 仕事も選択肢に入りますね。

委) 玉造だと、土浦に出ることになる。駅前に駐車場はしっかりとある。

コ) 50年後、行かなきゃいけないとは何だと思うか。

委) 人をお願いしてまで、出歩きたくない。

コ) 市職員からは。自分が市民の立場で。

市) 食べるもの、この確保をどうするか気にすると思う。畑でもやっていれば野菜は取れるかも。生活必需品などもいる。

委) こどもの世話になるのかなあと思っていたけど、近くにこどもが居ないのでそれでもないんだよね。葬式はしてくれるって言っているけどさ。

コ) じゃあ考えてみましょう。病院に行く、でも車が無い、でも行かなきゃいけない。その時はどうする？

委) かかりつけ医だとデマンドタクシーかな。

委) 仲いい友達ができると、連れてってもらえるけど。

委) もし事故があったらとかを考えてしまうと、補償問題とかになるから心配。人を頼れない心配が出る。

コ) 地域コミュニティに関わるけど、助け合いがどうできるか。システムでカバーできれば頼みやすいけどね。

委) 子どもに連れてってもらうけど、それもできなくなったら、家にいるしかないよね。

出歩かないことも考える。

委) お金があれば、タクシー使えるけどね。無いとね。

委) 免許がある状態と、無い状態では変わる。デマンドタクシーが、一番可能性があるかな。近くだと頻繁だけど、遠くだと公共交通機関になる。高齢になった時に、アクティブかわからないけど、遠くまで行きたいと思うのだろうか。

コ) 車を頼っている方、今ある手段をみんな知らない。それは仕方ない。でも、このままほうっておいたら、必ず運転免許を返納する日が来て、もっと不便になる。今に未来の話をしておかないと、もっと苦しくなることが見えているので、考えていこう。

委) 高齢者は老人ホームとか、公共交通を使わなくても良い施設に入ってしまう。そういう考えもある。

コ) たしかにその手もあるよね。ここから先はどうするか

審) 香取市は、路線バスからデマンドへ市の資金配分を移している。市内はデマンドへ。市外へは高速バスという風にシフトさせたいと思っている。行方市はインターが2つ出来るので、期待はできる。

構想日本で関わっている自治体だと、ここに行きたいというのがあったら地域の中でwebの掲示板を作成して、そこでマッチングをさせている例がある

コ) 住民協議会で公共交通のテーマは多い。群馬県太田市では福祉事業者が介護のための車で移動を手伝う。移動したい人がアプリに書き込むと、空き時間に近くを通った車が連れていく。まだ実験段階だったはず。

鳥取県琴浦町では、地域でボランティアのドライバー。保険などは社協か何かが保障する。館山市では地域の方がワンコイン(500円)で移動を補助する。市側で色々調べていただいて、行方市に合うものを探していただけたら良いと思う。

市) スマホを使ってもらえたらうまくいけるようなシステムにしたい。システム上の身分確認がどこまでできるか、色々なことが始まると思うので使っていききたい。デマンドタクシーが市内全域に市民限定の利用許可だが、ニーズが高いので市外の方、観光客や仕事の方にも使ってもらえるようなものを考えたい。高速バスで行方へきてくれても、デマンドタクシーには乗れないというのは解決しないといけない。

コ) 琴浦町では、タクシーが儲からないからタクシー運転主がほかの地域に引っ越してしまうということも聞くが、行方はどう?

市) やっぱり減っているというようなこともある。継続しているタクシー会社も家族経営みたいのところ。従業員を雇うほどでもないし、利用者もいないし。夜までやっている飲食店が減っていることも影響していると思う。

コ) バスとタクシー、しのぎを削るような感じになっているかも。

市) 病院のバスを利用している人もいると、聞いたことがある。

コ) デマンドタクシーは約1万件。これをもっと増やすかどうか。デマンドタクシーのみに頼ると、どこかで無理が来たり、財政状況で限界が来たりする恐れがある。民間で送

迎している。

市) 飲食店とか無料で送迎するところとか、許可を取らなくていい。

委) Uber みたいな形で、登録制で一般の人が人を運べるようなことができないか・・・。

コ) どこかで実験みたいなことをしていたと思う。次までに調べておく。公共交通の新しい計画に Maas の観点は載せている？

市) 載せている。

コ) 次回に新しい計画をお見せして、市の展望を考えていきましょう。

民間だと、利用者がいなければどんどん減っていってしまう。なるべく市民が公共交通に載ってもらえるようなアイデアはないか。

委) 買物すると、いろんなポイントが付く。主婦はポイントに弱い。公共交通に乗るとポイントが付くというのはどう？

コ) 地域通貨とリンクさせるというのはありだね。

市) 地域通貨を考えている。スイカみたいなやつの方版の導入を検討している。市営バスやデマンドタクシーで使えるというようなもの。ためたポイントで市内のお店で使えるような。乗り方として行きで路線バスに乗って、帰りデマンドタクシーだと、帰りが無料になる。乗り継ぎ利用特典制度という。

コ) 市民のみなさん知っていますか？

委) 知らない。

市) なかなか浸透しない。広域路線バス、鹿島などに乗った場合もタクシーが無料になるような制度がある

コ) 片道分の料金で行って帰れる。もっと知ってもらいたいんですよね。おいしい。もっと営業かけてもいいかも。

委) 確かに片道分で行けるならいいかも。

コ) デマンドタクシーは登録制。今日は、登録用紙はないみたい。次の会議の資料で送ってもいいですね。また、みなさん次までに試してきてもらえると面白いかも。

委) 登録は役所に行かないとダメ？紙を取りに行く？

市) FAX か、郵便か。必要ならお渡しする。

コ) もっと知ってもらいたい制度。PR をしていこう。利用が増えるほど市負担は嵩むが、市民にとっていいことなので。

最後のまとめ。いつかみんな移動手段がなくなって困る。そのときに困らないようにやるべきだね。そのために今何ができるか。

審) 市民委員さんがデマンドタクシーの応援団になるといい。

市) デマンドタクシーが午後4時までなので、うまく活用してほしい。

コ) こういうシステムですよ、ではなく、こういう使い方がありますよと伝えるのもいいよね。公共交通というとバスやタクシーになってしまうが、地域での助け合い、交通弱

者をどうするかというのも話していきたい。

ホワイトボードの写真（コーディネーターが議論をまとめた資料含む）

振り返り 公共交通

公共交通

・ 利用の現状

- 利用しない。路線を知らない。どこで情報を得たらよいかわからない。調べたことがない。
- 利用しなくても**市民に知ってもらうこと**が必要ではないか。小学生目線のポスターなどは？
- 自家用車に頼れなくなったときに困るを感じる。

・ 移動手段を維持するために必要なこと

- どこに行きたいのか、行く必要があるのかといった利用者目線での再編が必要ではないか。
- こうだったら利用したいアンケートや通院、通学 運転できない人にアンケートをとっては？
- バス停までの移動手段が今後重要になると思う。
- デマンドタクシーの方が利用希望が多くなるのではないか。
- 交通の結節点の拠点化が必要ではないか。機能集中で乗り換え時間が有効に使える。
- バスに乗ることそのものが集客につながる工夫もあると思う。イベント的要素・サツマイモバス

・ 市民の役割と行政の役割

- 地域協働という面での住民の助け合いも考えていく必要があるのではないか。

論点 公共交通

公共交通

・ 誰がどこへ行くための、移動手段が必要になるのか？

- 〇〇年後の行方市が目指す公共交通・移動手段の姿は何か？
- 都心部とのアクセスはどうなってほしいのか？
- 市民はどこへ行きたいのか？また、行けないのか？市民の生活実態をいかに把握するのか？

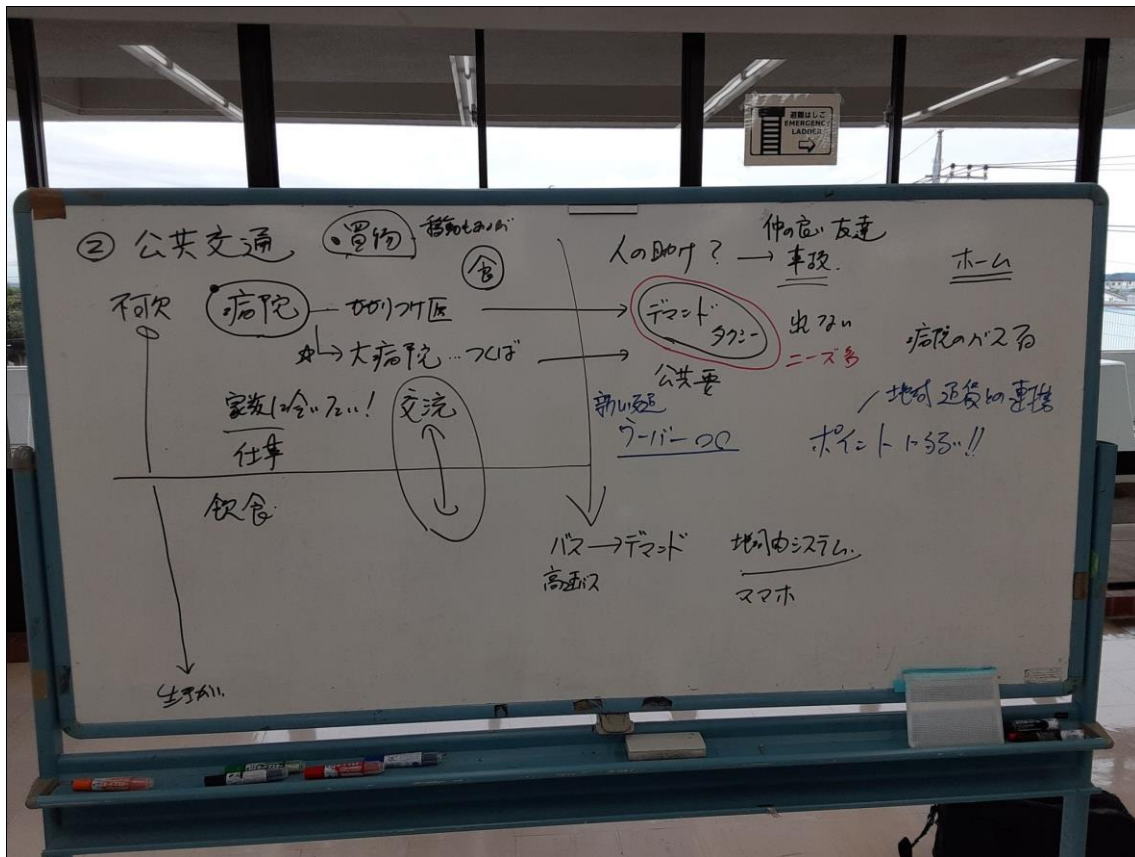
・ 現状の公共交通を維持するために必要なことは何か？

- 利用者を確保するためにできることは何か？
- 現状の交通手段をもっと知ってもらうためにできることは何か？
- 連結拠点の考え方は役立つのか？

・ 新しい移動手段は必要になるのか？

- 何が新しい交通手段になり得るだろうか？

・ 具体化するための、行政の役割は何か？ 市民・地域ができることは何か？



委): 委員、コ): コーディネーター、審): 審議員、市): 説明担当者